

福岡教育大学大学院 教職実践専攻

教育実践力開発コース 特別支援教育向上コース

(令和7年度新設)

教職大学院に入学するとこんなメリットがあります!

① 教員採用試験合格者への採用猶予

福岡県・福岡市・北九州市などの多くの自治体では、教員採用試験を学部4年次に合格した場合、申請を行うことにより2年間採用が猶予されます。入学者のうち、令和4年度は7名、令和5年度は11名、令和6年度は14名が、この制度を利用しています。この制度を活用し、教職大学院で2年間修学し、自信を持って教壇に立つことができます。

② 教員採用試験での特別選考

福岡県、福岡市については教職大学院1年次から、北九州市は修了予定者に対し、教員採用試験において、特別選考(一次試験免除等)を実施しています(令和5年度実施分)。

③ 初任者研修の一部免除

採用後、初任者教員に実施される研修について、教職大学院修了者については、一部免除される教育委員会があります(例:福岡県・北九州市)。例えば北九州市では、校内研修および校外研修の一部が免除されます。

④ 充実した学び(理論と実践の往還)

教職大学院での学びは、実践的なシミュレーション、継続的な実習、特別支援教育など、充実したものとなっています。理論を学び、多様な実践を経験することで、教員となる心構えができ、教壇に立つ際の自信につながります。

⑤ 修了後にもいきるネットワーク

教職大学院では、学校長や教育委員会経験者である実務家教員、教育研究の専門家である研究者教員が協働して指導を行います。また、教員や現職教員院生との学び合いを通じて、修了後の教員生活へとつながる心強いネットワークを作ることができます。

⑥ 検定料、入学料の免除

教員採用試験合格者への採用猶予制度を利用して進学する場合は、入学料の全額免除を行います。また、福岡教育大学内推薦志願者は、検定料の全額及び入学料の半額免除を行います。

《参考》※令和6年度の金額

検定料:30,000円 入学料:282,000円

授業料:前期 267,900円、後期 267,900円(年間 535,800円)

教員になった大学院生の第1種奨学金、全額免除! ※文部科学省(令和6年5月9日通知)より

●優秀な人材に教員になってもらうため、大学院を修了して正規教員に採用された人を対象に、**大学院在学中に借りた日本学生支援機構の第1種奨学金の返済が全額免除**されます!

●公立校だけでなく国私立校に就職した場合も対象となります!

●教員採用試験に合格し採用猶予制度を利用して進学する場合も対象です!

※詳細につきましては、必ず文部科学省のホームページ(令和6年5月9日通知)をご確認ください。

《参考》

88,000円(月額)×12ヶ月=1,056,000円(年額)が全額免除。





授業と実習を連動させた「理論と実践の往還」

学部卒等院生を対象とする教育実践力開発コースでは、志望校種別に4つのプログラムを設けています。令和7年度より、特別支援教育向上コースが新設され、「特別支援教育高度実践力プログラム」を設けます。これらのプログラムでは、現職教員院生との協働的な学修を通して、授業の見方、児童生徒への接し方等、教育現場の状況を強く意識できるカリキュラムを設定しています。

また、本コースでは、「チーム学校」の一員として学校現場で活躍できるゼネラリストとしての基礎力を育成することを目指しています。



学長あいさつ

福岡教育大学は、豊かな知を創造し、教育実践力にあふれた教員の養成を目指しています。九州・沖縄地方を中心とし、持続的な発展に寄与する人材を育成する教員養成の拠点大学として、生涯にわたり学び続ける有為な教育者を養成しています。

その中で、教職大学院は、新たな学校づくりの一員となる若手教員の養成、学校や地域における優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーの育成を目指しています。

本学では、平成21年に教職大学院(専門職学位課程)を設置し、これまで402名の修了生を輩出してきました(令和6年3月現在)。同大学院は令和3年のコース・プログラム再編に続き、令和7年度の新設コース(特別支援教育向上コース)の設置に向けて動き出しています。今次に求められる特別支援教育の高度化に対応する大学院として拡充していきます。

今後も、学校や教育委員会との連携を更に深めながら、研究・教育体制の充実と発展に寄与していきます。未来の教育を担う熱意あふれるみなさんの入学を心よりお待ちしております。



福岡教育大学 学長
飯田 慎司
Shinji IIDA

専攻主任あいさつ

教育実践力開発コース主任

本教職大学院は、これまでの大学院教育(修士課程)の成果を踏まえ、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新入教員の養成、地域や学校における指導的役割を果たし得る確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーの養成、現代的な課題に対応する研究能力を有した専門職人材の養成などを目指した大学院づくりに向けて日々邁進しております。具体的には、高度専門職業人としての教員に求められる資質・能力を育成するために、講義・演習、実習、課題演習科目を通じて、優れた教育実践を分析・検討して理論化したり、理論的な背景に基づいた構想を実践レベルに具体化したりするなど「理論と実践の往還」を重視した教育課程を編成・実施しています。

現在、令和7年度の特別支援教育向上コースの設置に向けて、関係諸氏の皆様のご意見をいただきながら様々な取り組みを進めているところです。今後の教職大学院の取り組みにどうぞご期待下さい。



専攻主任
坂井 清隆
Kiyotaka SAKAI



教育実践力開発コース主任
有元 康一
Koichi ARIMOTO

教職大学院2年間の学び

合計
46
単位

18
単位

現職教員院生と学部卒等院生が共に学ぶ

共通科目

共通科目は、全コースの院生が共通に学ぶ基本科目で、今日的な教育課題について幅広い専門的知識と実践力を修得するための5領域から構成されています。

概要

学部卒等院生と現職教員院生が学校教育に関する内容5領域(教育課程、教科指導、生徒指導、学級・学校経営、学校教育と教員の在り方など)について学びます。

4
単位

2年間の学びの成果としての

「課題演習」

教職大学院では、2年間を通して「課題演習」が設定されています。教育実践研究の進め方を習得したり、学校現場がもつ課題の改善・解決のための取組を実践し発表します。

概要

各人の設定するテーマに基づく2年間の実践的研究を行います。

14
単位

教師としての各領域の専門的力をさらに高める

コース別科目

実践力、教育の未来を考えるための幅広い専門的視野と実践的開発力の育成のため、3領域(学級経営・教育環境・教科・領域等の実践的な指導方法・教材開発及び授業改善、教員としての人間関係形成力)から構成されています。

概要

教師としての各領域の専門性を深める科目で構成されています。

10
単位

理論と実践の往還の基盤となる

学校における実習

教職大学院の基本的課題である理論と実践の往還をめざし、すべてのプログラムにおいて幅広い領域の実習を2年間通して行います。実習は本学の附属学校に加えて、公立学校と連携して実施します。

概要

理論と実践の往還の基盤となる継続的な実習を行います。



アドミッション・ポリシー 入学受入の方針

※アドミッション・ポリシーについては、2024年度の内容になります。必ず募集要項をご確認ください。

教職実践専攻においては、1)教員としての高い使命感、豊かな人間性・社会性、2)教員としての高度で専門的な知識・技能、3)学校現場の課題に対応できる教員としての実践的指導力、4)教員のキャリア・ステージに応じたリーダー教員としての力を培い、小学校、中学校、高等学校で活躍できる教員の養成を目標としています。

そのために、若年教員層のリーダーや、教科教育、学校適応支援、特別支援教育推進、学校運営といったスクールリーダーに求められる専門的な知識・技能、実践的指導力等を高めるカリキュラムをプログラムごとに編成しています。

(そこで、次のような人の受験を期待します)

◎高い教育実践力により学校教育を推進・発展させようという熱意を持った人

教育実践力開発コースでは、学士課程において身につけるべき教員としての幅広い視野と豊かな教養、高い専門性、確かな実践力、責任を担う社会性、将来にわたる自己実現力を有すると共に、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状若しくは高等学校教諭一種免許状のいずれかを有している人または取得見込みの人

スクールリーダーシップ開発コースでは、原則として、一定の教職経験に基づく教育実践力を有している人

◎高い人権意識、バランスのとれた思考と自己理解力のある人

◎それぞれのプログラムにおいて必要となる基礎的な知識・技能を有している人

(入学選抜では、次のような力を評価します)

◎教育実践力開発コースでは、一般選抜、福岡教育大学学内推薦選抜、協定校特別推薦選抜を実施します。

◎教育実践力開発コースにおいては、「論文(教科等もしくは教職に関する内容)」、「集団による課題解決・面接」を課します。

・「論文(教科等もしくは教職に関する内容)」では、基礎的な学習の到達度や、当該コースに関する関心や理解、教育課題に対する意識、分析能力、論理的記述能力等を評価します。

・「集団による課題解決・面接」では、グループ協議によって教職に関する課題を解決する力、口頭で明確に論理的に発表する力、



自己への省察力、教職への意欲・熱意、高い人権意識について総合的に適性を評価します。

○福岡教育大学学内推薦選抜、協定校特別推薦選抜においては、「面接」を課し、口頭で明確かつ論理的に発表する力、自己への省察力、教職への意欲・熱意、高い人権意識について総合的に適性を評価します。

◎スクールリーダーシップ開発コースにおいては、一般選抜を実施します。

・試験は「口述試験」を課し、事前に提出された教育実践や課題演習構想に関する関心や理解、教育課題に対する意識、分析能力等の当該コースおよびプログラムにおいて求められる力、自己への省察力、高い人権意識について総合的に適性を評価します。

ディプロマ・ポリシー 学位授与の方針

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻は、教育現場において、児童・生徒への実践的指導、学校適応の推進、特別支援教育の推進または学校運営を行う高度専門職業人としての力を「教職修士力」として、それらを身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して、修了時に「教職修士(専門職)」の学位を授与する。

○教員としての高い使命感、豊かな人間性・社会性

学校教育や教員の職務への深い理解に裏打ちされた教職に対する高い使命感、生涯にわたる人間的に成長していく能力を有すると共に、学士課程等で培われた国際性、教養、学識を一層幅広く深めることにより学校教育での諸課題に対応できる豊かな人間性・社会性を備えている

○教員としての高度で専門的な知識・技能

学士課程等で培われた幅広い専門的な知識・技能をさらに深め、学級経営・学校経営、教育環境に関する知識・技能、教科等の教材開発及び授業改善、学校適応支援、特別支援教育推進に関する知識・技能、教員としての人間関係形成に関する知識・技能を一層広く有している

○学校現場の課題に対応できる教員としての実践的指導力

教職において求められる高度で専門的な知識・技能を土台とし、学校教育での特別支援を含めた多様な諸課題を解決できるとともに優れた教育実践を創造し、遂行する能力を有している。



○教員のキャリア・ステージに応じたリーダー性

キャリア・ステージに応じて、児童・生徒に確かな学力を身につけさせることができる高い授業力、豊かな人間性を育成できる心温か

く的確な生徒指導・学級経営力、学校において中核となって教育実践や運営を推進できるリーダーとしての能力を有している。

カリキュラム・ポリシー 教育課程編成・実施の方針

○それぞれのプログラムにおいて、若年教員層のリーダー、教科指導のリーダー、学校適応支援のリーダー、特別支援教育推進のリーダー、または、学校運営のリーダーとなる人材の育成を目指し、専門的な知識・技能や学校現場の課題に対応できる実践的指導力を向上させ、教員としての強靱な精神を涵養する教育課程を編成・実施する。

○学部卒等院生(教職系・教科系)、現職教員院生(教職系・教科系)の計4つのタイプの院生を、今日的な教育課題に向かい課題解決力を磨く学修者にとらえ、異なるキャリアや体験を活かし主体的・協働的に教科実践力・教職実践力を高めて行くことができるように教育課程を編成・実施する。

○教職の専門性を幅広く確実に習得するため、研究者教員と実務家教員の協働体制のもと、事例研究の方法やワークショップの指導方法を重点的に身につけるとともに、講義・演習、実習、課題演習といった科目間の関連性が確保された階層的で体系的な教育課程を編成・実施する。

○高度専門職業人としての教員に求められる資質・能力を育成するために、講義・演習、実習、課題演習科目等を通じて、優れた教育実践を分析・検討して理論化したり、理論的な背景に基づいた構想を実践レベルに具体化したりするなど「理論と実践の往還」を重視した教育課程を編成・実施する。

○全開講科目において、本学の理念・目的に沿い、高度専門職業人としての教員を養成するための一般・到達目標並びに成績評価の判断基準・方法を定め、教員間で共有し、適正な評価を行う。

○課題演習では、教育実践における諸課題の解決を目指し、各自が設定したテーマについて主体的かつ継続的に学修した成果を総合的に評価する。

教科の専門性をもって小学校教師へ

初等教科教育高度実践力プログラム

小学校教員として高度な実践を行える資質・能力を養うことを目的としたプログラムです。国語、社会、算数、理科、体育、英語(外国語)の科目について学ぶことができます。国語・算数は「教科等における授業実践と評価の研究Ⅰ」で全員履修しますが、その他の教科別科目は、各自の専門とする科目を選択します。例えば、開発した教材や授業方法を用いて、実習校で実践・分析したり、特定の教科と他教科の横断的カリキュラムを作成したりする研究なども可能です。小学校教員として、教科の実践力を身に付けたい、自身の教科指導の核となる教科を持ちたい、教科指導について研究したいという皆さんにおすすめです。



プログラムの科目

- 「教科等における授業実践と評価の研究Ⅰ(国語)」
- 「教科等における授業実践と評価の研究Ⅰ(算数)」
- 「教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ(社会・算数・理科・英語・体育から1科目選択)」
- 「教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ(国語・社会・理科・英語・体育から1科目選択)」ほか

魅力的な授業のできる中学・高校教師へ

中等教科教育高度実践力プログラム

中学校及び高等学校教員として、専門教科の基礎となる諸科学や本質について専門的な理解を深めるとともに、教育内容と指導方法を有機的に結びつけて授業等を効果的に展開できる高度な実践力を身に付けます。国語、社会、数学、理科、保健体育、英語の6教科を対象としています。近年、重要視されているカリキュラム・マネジメントの観点から、他教科について理解を深める科目も設置しています。また、授業実践に関わる学習指導案や教材等の作成、実践が何度も実施できるのはもちろんのこと、教科指導には欠かせない評価についても、深く学んでいきます。専門教科の授業実践について研究したい、教科担任として自信をもって教壇に立ちたいという皆さんにおすすめです。



プログラムの科目

- 「教育実践の理論と授業づくり」「授業実践と評価の研究Ⅰa」
- 「授業実践と評価の研究Ⅰb」「授業実践と評価の研究Ⅱ」
- 「授業実践と評価の研究Ⅲ」「授業実践と評価の研究Ⅳ」ほか

教育のスペシャリストとして総合的な力をもった教師へ

教職教育高度実践力プログラム

小学校、中学校、高等学校の教員として、特に、子供理解を基盤として、各教科の指導、学級経営、特別活動、道德教育、総合的な学習の時間、生徒指導等の教職全般にわたる総合的な実践力を身に付けます。教科指導に関わる研究だけでなく、特別活動や道德科、総合的な学習の時間など学校で行われる様々な教育活動、キャリア教育や特別支援教育など教育活動全体とかかわりの深い内容についても研究の対象とすることができます。学級担任として学級経営や生徒指導の力を伸ばしていきたい、教科指導に限らず、教職全般にわたって総合的に学修したいという皆さんにおすすめです。



プログラムの科目

- 「特別活動・総合的な学習の時間の実践と課題」「道德教育の実践と課題」
- 「教師の成長とセルフスタディ」「教育連携フィールドワーク」
- 「家庭・地域・学校の連携・協働の構築」「教育の情報化における課題と実践」
- 「教科教育における授業実践の研究」ほか

小学校教員免許状を取得し、新たなスタートを 初等教育高度実践力特別プログラム

平成28年度から教育実践力開発コース内に小学校教員免許状取得プログラムとして開設し、修了生を輩出してきました。履修期間3年間のプログラムです。小学校以外の校種の一種免許状を有する者(取得見込者を含む)が、小学校教諭免許状を取得することを目的としたカリキュラムです。1年次は学部での学修、2～3年次は教育実践力開発コースの初等教科教育高度実践力プログラム、または教職教育高度実践力プログラムいずれかの科目を履修します。



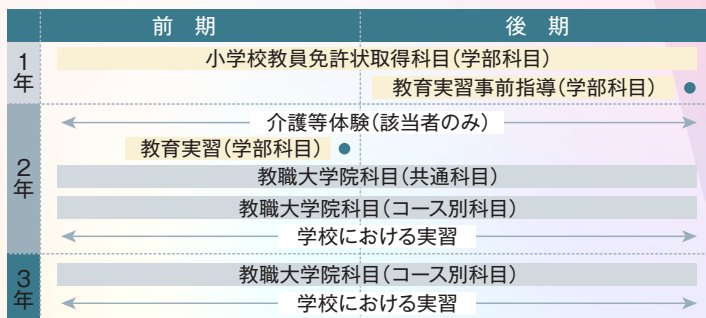
📌 カリキュラム

修了に必要な単位数	区 分		単位数	概 要
	教職大学院	共通科目	18	学部卒等院生と現職教員院生が学校教育に関する内容(教育課程、教科指導、生徒指導、学級・学校経営、学校教育と教員の在り方)について学びます。
		コース別科目	14	教師として各領域の専門性を深める科目
		課題演習	4	各人の設定するテーマに基づく2年間の実践的研究
		学校における実習科目	10	理論と実践の往還の基盤となる継続的な実習
		合計	46	
	学 部	合計	49程度	学部において、小学校教員免許状に関係する科目を履修

📌 履修モデルのイメージ図

1年 小学校教員免許状取得に必要な49単位程度を学部で履修。教育実習は2年次に履修。

2年～3年 2年間で共通科目18単位以上、コース別科目14単位以上、課題演習4単位、学校における実習10単位の授業を履修。



あなたはどのタイプ？

- 国語・数学(算数)・理科・社会・保健体育・英語の授業力アップを目指したい A・B・D
- 教科に限らず、教育を総合的に学びたい C
- 特別支援教育について研究したい E
- 小学校の教員になりたい A・C・D
- 中学校または高等学校の教員になりたい B・C
- 小学校の教員になりたいが、小学校以外の校種の免許しか取得していない D
- 特別支援学校の教員になりたい E
- 特別活動や生徒指導、学級経営、道徳などを研究したい C
- 小学校教員として、全教科を教えることに不安がある A
- 教科の内容と教育方法をつなげた授業づくりを追求したい A・B・D
- 子供の発達について、学校だけでなく連携する機関や特別支援教育の視点等からも学びたい C・E
- 授業をしたことはあるけれど、評価についてもう少し勉強したい A・B
- もともと小学校以外の校種の希望であったが、様々な経験がきっかけで、小学校教員に魅力を感じた D



Aが多かったあなた…初等教科教育高度実践力プログラムへ

Bが多かったあなた…中等教科教育高度実践力プログラムへ

Cが多かったあなた…教職教育高度実践力プログラムへ

Dが多かったあなた…初等教育高度実践力特別プログラムへ

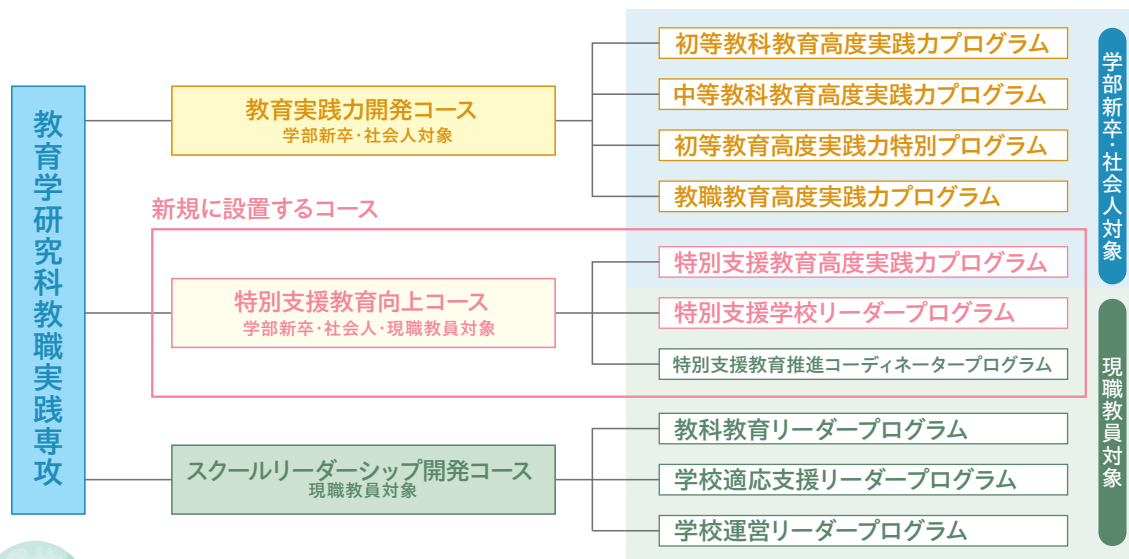
Eが多かったあなた…特別支援教育高度実践力プログラム^(※)へ

※詳しくは次ページへ

特別支援教育向上コース (令和7年4月新設)

福岡教育大学教職大学院では、特別支援教育に特化した特別支援教育向上コースを新設します。特別支援教育向上コースでは、高度な特別支援教育の指導の力量育成と校内や校外の特別支援教育をコーディネート、指導できるリーダーを育成します。

○福岡教育大学教職大学院(改組後)



特別支援教育の専門的な理解と実践力を備えた教師へ

特別支援教育高度実践力プログラム

特別支援学校教員として自立活動の指導や指導計画を立案・実行できる力量をつけます。特別支援学校の教科や領域について専門的な理解を深め、教育内容と指導方法を有機的に結びつけて授業等を効果的に展開できる高度な実践力を養います。

特別支援教育の授業実践について研究したい、特別支援学校についての知見を深めた上で現場で活躍したいという皆さんにおすすめです。

プログラムの科目

- 「障害のある児童生徒の理解と合理的配慮」
- 「特別支援教育の教育課程と個別的教育支援計画・指導計画」
- 「特別な教育的ニーズの把握」
- 「特別支援教育におけるICTの利用と完成」ほか



全プログラム共通の内容

📌 学校における実習 (上段:教育実践力開発コース各プログラム 下段:特別支援教育高度実践力プログラム)

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
TAインターンシップⅠ (2単位)	TAインターンシップⅡ (2単位)	TAインターンシップⅢ (2単位) 教育実践コラボ レーション実習(2単位)	TAインターンシップⅣ (2単位)
特別支援教育実践実習B (2単位)	特別支援教育TA実習 (2単位)	特別支援学校TA実習Ⅰ (2単位) 自立活動実践実習A (2単位)	特別支援学校TA実習Ⅱ (2単位)

TA実践インターンシップⅠ

学校における実習の導入として位置づけ、自己の教育実践における研究課題の発見に焦点をあてます、附属小中学校での8日間程度の実習に加え、近隣の公立学校で3日間程度の実習を行います。

TA実践インターンシップⅡ～Ⅳ

志望する学校種の連携協力校等で、TA(ティーチングアシスタント)として参画することを通して学校での実務について理解を深めるとともに、各自の研究関心に応じた課題の追及を行います。

教育実践コラボレーション実習

志望する校種以外の学校で10日間程度の実習を行います。授業分析、参与観察、リフレクションを通して学習者の成長を俯瞰する一貫した教育の意義について理解を深めます。

特別支援教育実践実習B、特別支援教育TA実習、自立活動実践実習A、特別支援学校TA実習Ⅰ・Ⅱ

教育内容と指導方法を有機的に結びつけて授業等を効果的に展開できる実践力の理解を深めます。附属福岡小・中学校、近隣の連携協力校(小・中学校)、特別支援学校等で、10日間程度の実習を行います。

📌 課題演習

課題演習では、個人の課題意識に沿って、テーマを決めて研究に取り組みます。専門性を持った教員(各教員の専門分野については、9～10ページを参照ください)と、少人数や個別のゼミ形式で進めていきます。テーマによって、各種実習と関連させながら、教育実践やその他学校現場での調査などを取り入れた研究も可能となっている点が特徴的です。各期の最後には、それまでの成果発表の場が設定されます。

- 情報活用能力を育む授業づくり — ICTを活用して情報活用の実践力を育む—
- 生徒の説明力を育む高等学校地歴科授業 — 単位で問いの構造を意識した授業展開を通して—
- 学びのユニバーサルデザイン(UDL)を基にした全ての生徒が分かる授業づくり
—UDL—GLを用いた高校数学の授業実践—
- 数学的な表現を用いて説明することができる生徒の育成 — 自他の表現を比較・検討する交流活動を通して—
- 生徒の課題解決力向上のための授業づくりに関する研究 — エラー&トライアルを基盤として—
- RME理論に基づく高等学校数学科における生徒が数学の概念・法則等を見出す授業実践に関する研究
— 創発的モデリングに焦点をあてて—
- 小学校道徳科における自己の生き方の考えが深まる授業づくり — 複数関連価値統合型の授業を通して—
- マルチプルインテリジェンスを用いた授業づくり — 子どもが自分で学習方法を選択することを通して—
- 自分の状況を捉え、選択できる授業づくり — 英語での[やり取り]の活動を通して—
- 共生の視点を重視した体育の授業づくり — アダプテーション・ゲームを手段として—
- 高等学校歴史科における主体的・対話的で深い学びの実践研究
— PBL理論に基づいた探究型の授業づくりを通して—
- 中学校技術科におけるプログラミングを活用した問題解決を図る授業実践
— ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツを題材として—
- 一人一人の子どもが学びを深める算数の授業づくり
— 「調べタイム」を取り入れた個別最適な学びと協働的な学び—
- 芸術科書道における鑑賞について — 「鑑賞の手びき」を用いて—



教職大学院棟のほかにグローバルラーニングセンターなどでも授業が行われます。

少人数で行われる授業もあります。

教職大学院棟には図書室もあり、本を借りることもできます。

教職員採用試験への取り組み

本学キャリア支援センターで行われている対策講座と同時進行で、教職員大学院の教員による充実した採用試験対策ゼミが行われます。

採用試験で特別措置

教職大学院での実践的な学びが評価され、教員採用試験では「特別選考」(一次試験 筆記試験免除など)を実施している教育委員会があります。

学部4年次に教員採用試験に合格し、翌年度に教職大学院に進学する場合には、「名簿登載期間延長措置」として、教職大学院での2年間の学びを修了した後に教壇に立つことができる教育委員会が増えています(例:福岡県・福岡市・北九州市)。

教職大学院1年次に合格した場合も同様です。

教育実践力開発コース修了生の就職先(修了時正規採用者のみ)

修了年度	修了者数	就職先
平成22年度	7	福岡県(小)2名/福岡県(小)1名/福岡県(中)1名/大阪府(中)1名/神奈川県(中)1名/神奈川県(高)1名
平成23年度	13	福岡県(小)5名/福岡県(小)1名/横浜市(小)1名/堺市(小)1名/福岡県(中)1名/福岡市(中)1名
平成24年度	11	福岡県(小)5名/北九州市(小)1名/福岡県(中)3名
平成25年度	9	福岡県(小)4名/福岡県(中)3名
平成26年度	9	福岡県(小)1名/鳥取県(小)1名/堺市(小)1名/福岡県(中)4名/山口県(高)1名/大分県(特別支援)1名
平成27年度	7	福岡県(小)2名/北九州市(小)1名/福岡県(中)1名/福岡県(高)2名
平成28年度	12	福岡県(小)4名/福岡市(小)1名/福岡県(中)4名/福岡県(高)1名
平成29年度	17	福岡県(小)2名/福岡市(小)1名/福岡県(中)5名/福岡市(中)2名/北九州市(中)1名/佐賀県(中)1名/福岡県(特別支援)1名
平成30年度	27	福岡県(小)5名/福岡市(小)3名/福岡県(中)4名/福岡県(中)2名/北九州市(中)2名/大分県(中)1名/広島市(中)1名/福岡県(高)4名/福岡県(特別支援)1名
令和元年度	22	福岡県(小)7名/北九州市(小)1名/大分県(小)1名/山口県(小)1名/山口県(中)2名/福岡県(中)1名/長崎県(中)1名/茨城県(中)1名/福岡県(高)2名
令和2年度	20	福岡県(小)9名/北九州市(小)2名/福岡市(小)1名/福岡県(中)4名/福岡市(中)1名
令和3年度	31	福岡県(小)6名/北九州市(小)6名/福岡市(小)1名/福岡県(中)8名/福岡市(中)3名/佐賀県(中)1名/鹿児島県(中)1名/神奈川県(中)1名/福岡県(特別支援)1名/北九州市(特別支援)1名
令和4年度	33	福岡県(小)2名/福岡市(小)2名/北九州市(小)1名/佐賀(小)2名/長崎(小)1名/鹿児島県(小)1名/福岡県(中)4名/福岡市(中)5名/佐賀(中)1名/福岡県(高)7名/福岡県(特別支援)1名
令和5年度	31	福岡県(小)5名/福岡市(小)1名/北九州市(小)1名/宮崎県(小)1名/福岡県(高)9名/福岡県(特)1名/福岡県(中)6名/福岡市(中)2名/北九州市(中)1名/長崎(中)2名/沖縄(中)1名/広島県(中)1名

学校現場で活躍する修了生の声



糸島市立中学校教諭、令和4年3月修了
筑紫女学園大学出身

浦 未希 先生

現場では、授業や教材研究、生徒指導など、目の前の仕事と日々格闘しています。一人ひとり、育ってきた環境や価値観の違う生身の子どもたちを前に、葛藤し、苦悩することもあります。「先生、先生。」と私を呼び募ってくれる彼らのために、今私ができることを。ということを常に考えながら、教員生活を送っています。

教職大学院での学修をまとめたマイブックは、私のお守りのような存在で、困ったときに引っ張り出して読んでいます。教育に正解はありませんが、2年間での学びは、間違いなく私の指針となってきています。また、大学院でのリフレクションの視点から、自分自身を振り返ることが増えました。「自分が子どもだったら」など、様々な視点に立ち、教師としての自分の言動や、次にどう生かすかを考えることで、授業づくりや子どもとの関係構築に役立っています。

教職大学院での学びを土台に、これから子どもたちのために努力を重ねていきます。



北九州市立小学校教諭、令和4年3月修了
福岡工業大学出身

大山 悟史 先生

教職大学院では、日々の授業で理論を学び、その学びを実習で実践することができました。そして、実践で得たことやうまくいかなかったことを教職大学院にもち帰り、教授や院生とああでもない、こうでもない議論しました。そんな日々の院生生活の中で、培われてきたものが、私の教員としての土台となっています。まさに「理論と実践の往還」が教職大学院の魅力だと思います。

特に魅力だと感じていることは、課題演習です。課題演習では、学級活動(2)ーよりよい人間関係の形成ーについて研究を進めてきました。その研究で得た学びを生かして、学級の子ども達とよりよい人間関係、よりよい学級を目指し、共に頑張っています。それは他の人にはない、私自身の強みだと思います。

教職大学院の学びが、教職に就くあなたの支えに、必ずなります。共に頑張りましょう。

＼在籍院生に聞く／

在籍院生7人に聞きました！



本多 加歩さん(初等教育高度実践力特別プログラム、鎮西学院大学出身、令和5年教員採用試験合格)
 永松 海人さん(初等教科教育高度実践力プログラム、福岡教育大学出身、令和4年教員採用試験合格後進学)
 高野 愛貴さん(中等教科教育高度実践力プログラム、福岡女学院大学出身、令和4年教員採用試験合格後進学)
 古田 将也さん(中等教科教育高度実践力プログラム、福岡大学出身、令和5年教員採用試験合格)
 山本 和音さん(中等教科教育高度実践力プログラム、福岡教育大学出身、令和5年教員採用試験合格)
 水流 千曉さん(教職教育高度実践力プログラム、筑紫女学館大学出身、令和4年教員採用試験合格後進学)
 三宅 仁さん(教職教育高度実践力プログラム、近畿大学出身、令和4年教員採用試験合格後進学)

①なぜ進学を選んだのですか？

教育学部出身ではなかったため、自信を持つことができず現場に出ることへの不安がありました。だから、もっと教職に関する勉強をしたいと思い進学しました。ついていけないなどの不安はありましたが、進学に迷いはありませんでした。(三宅さん)／もともと他校種の教員を目指していましたが、学部の経験がきっかけで、小学校の免許を取得でき、かつ教員としてのスキルを確実に身につけることができる初等教育高度実践力特別プログラムを選びました。地元を離れる不安は大きかったですが、それよりもこのまま教壇に立つ不安の方が大きかったように思います。(本多さん)／教育実習を通して、自身の専門教科に対する知識や実践力に不安を抱いたことがきっかけです。同時に、教科外における学級経営や生徒指導などにおいても自信を持って子供たちを指導することができないと考え、進学を考えるようになりました。(高野さん)

②進学してよかったことは何ですか？

様々な人の意見を聞き、それぞれの知識や経験から考えを共有する機会を得られたことだと思います。現職の先生方からは現場のリアルなご意見をいただくことも多く、ぼんやりとしていた「先生として目指したい姿」が現実的になってきたように思います。(本多さん)／理論面だけでなく、週に一回の実習を行うことで、学校現場を感じることができるなど、実践面も充実していることです。(永松さん)／進学してよかった点は、視点が広がったことです。大学院で様々なことを学ぶことによって、自分が主語ではなく、子どもが何を学んでいるのか、やろうとしている活動は子どもの学びになっているのかといった子供主体で考える大切さを学びました。(古田さん)／インターンシップを通して、学校現場を実際に経験することで自信をつけることができたことです。(水流さん)

③進学してどんな変化がありましたか？

自分が目指したい授業像や子供たちとの関わり方、見通しをもって考えることができるようになりました。特に、一つ一つの発問や声のかけ方について考えることができるようになったため、反省点や改善点を整理しながら子供たちと向き合うことができるようになったと思います。(本多さん)／学部時代は漠然としていた自分の理想とする教師像や教育観が明確になりつつあると思います。それは、教職大学院は、教師を志す人たちがばかりで、互いに支え合い、高め合うことができるからではないかと考えます。(高野さん)／進学前は学校現場へ出ることに不安感が多くありましたが、1年間を通して児童の前に出ることが楽しみになりました。(水流さん)／まだ知らなかったことがあることに気づき、進歩した状態で初任として働けることが楽しみです。(山本さん)

④大学院の雰囲気はどうですか？

活発に活動する人たちが多く明るく楽しい雰囲気です。定期的にスポーツをしたりしてとても仲が良いです。(三宅さん)／院生生活の中でほどよく負荷もありますが、不安な点や疑問に思ったことを気軽に相談したり共有したりする環境が整っているので、安心感があります。(高野さん)／とてもいい雰囲気です！気軽に來ることができ、先輩や同僚、先生など多くの人と関わりがあります！(永松さん)／先輩後輩が仲良く、話しかけやすい雰囲気です。困ったことがあったらなんでも聞くことができます。(水流さん)／教職大学院の先生方は全員優しいですし、大学院で行われる授業も院生同士の活動や交流が多く設定されています。そのため、院生同士で語り合う時間も多く、院生室でも教育の話を含め、相手の意見を聞いて自分に取り入れ、自分の意見を相手に伝えるといった有意義な時間を過ごせています。(古田さん)

⑤採用試験対策はどのようなことが行われていますか？

過去問で得た知識、就職を希望する自治体に沿った志望理由などを、先生方の面接対策によって明確にしてくださいました。(本多さん)／教職大学院での教員採用試験対策では、現場経験の豊富な先生方が実際に面接官役を務めてくれます。自分はこの教員採用試験対策がなければ、教員採用試験に受かっていなかったと言えるほど、本当にありがたかったです。(古田さん)／本番で緊張しなかったのも、自分らしさを出して挑むことができました(山本さん)

⑥未来の後輩へメッセージをお願いします！

一緒に多くの経験をして、多くを学び、頑張りましょう！(三宅さん)大学院では理論と実践を通じて、教員としての心構えと子供たちと向き合うための自信を身に付けることができます。また、同じように教員を志す仲間との出会いは、自分の価値観を広げてくれました。進学への不安もあると思いますが、沢山悩んで後悔のない選択をしてください。(本多さん)／「教員になりたいが、でもまだ不安な気持ちもある」と感じている人にとって、教職大学院は、自己とじっくり向き合い、自分の強みを見つけ、伸ばすことができるため、有意義な大学院生活を過ごすことができると思います。(高野さん)／いままで学ぶことが出来なかった、学びたくても学ぶことができなかったことをたくさん学ぶことができます！！教師になる上での自信もつきます！！(永松さん)／一緒にたくさんのことを学びましょう。(水流さん)／素晴らしい環境の中、日々教育のことについて勉強し、TAインターンシップに行くことで現場では得られない経験も沢山積めると思っています。未来の子どもたちと切磋琢磨するために、一緒に頑張りましょう！！(古田さん)／不安なことも多いと思いますが、ここに来れば大丈夫です。安心して充実した日々を過ごすことが出来ます。待ってます！(山本さん)



本多 加歩さん 永松 海人さん 高野 愛貴さん 古田 将也さん



山本 和音さん 三宅 仁さん 水流 千曉さん

教員紹介

①氏名・職位 ②専門分野 ③主な担当授業 ④研究分野の内容



●専門分野

学校経営
地域連携教育
算数科教育

●主な担当授業

学校間連携・地域連携マネジメント
スクールコンプライアンスと教職プロ
フェッションの開発

●研究分野の内容

学校現場と教育行政での業務経験に基づき、これからの時代に求められる学校及び教育行政のリーダーシップとマネジメントの在り方について研究を進めています。特に、地域との連携・協働による学校経営コミュニティ・スクール、地域学校協働本部活動を推進しています。また、数学的活動を重視した算数科教育も研究しています。



●専門分野

特別支援教育

●主な担当授業

発達援助の理論と実践

●研究分野の内容

特別支援教育の対象となる児童生徒の中でも特に発達障害について研究しています。発達障害の心理と教育について取り組んでいます。障害のある児童生徒の教育相談や臨床活動に取り組んだ経験を活かしながら、地域の学校に巡回相談に出向くなどの活動を行っています。障害のある人のロマンティック・サイエンスに興味を持っています。知能検査や認知検査等の心理アセスメントに関する研究を行っています。



●専門分野

特別支援教育
学校運営

●主な担当授業

自立活動の理論と心のバリアフリー
の実践
障害の理論と実践

●研究分野の内容

指導行政及び学校管理職としての実務経験をもとに、特別支援学級・通級指導教室の授業づくりや特別支援教育の考え方に基づく校内支援体制の構築などの実践に取り組んできました。また、交流及び共同学習や心のバリアフリーなどについても実践的な研究を進めています。



●専門分野

学校経営
学校運営
算数科教育

●主な担当授業

学校評価と学校改善
OJTとチームマネジメント

●研究分野の内容

小学校での教員・管理職経験や教育行政での経験を生かして、先生や学校を元気にする研究・実践を目指しています。学校経営・学校運営では、学校組織マネジメントとリーダーシップ、コミュニティ・スクールについて研究をしています。また、教科では、数学的な見方・考え方を生かした算数科学習指導、学ぶ意欲を高める算数科の教材づくりについても研究しています。



●専門分野

特別支援教育

●主な担当授業

特別支援教育における資源の活用
と連携
学級における特別支援教育の
ケース研究

●研究分野の内容

発達障害のある子どもの認知特性をアセスメントし、それに応じた学習支援の技術を選択・開発する研究・実践を行います。読み書きだけでなく、読解や作文、計算、問題解決(文章題)を対象としています。ワーキングメモリーの問題に基づいて個別から集団での支援方法を考えます。子どもが学習や環境に対し無力ではないと感じることを目指します。



●専門分野

教育方法学
社会科教育

●主な担当授業

授業づくりの理論と質的研究の基礎
教科教育実践と指導法の改善

●研究分野の内容

授業研究、カリキュラム研究を中心に、教育方法学の知見(授業分析)を生かした実践研究に取り組んでいます。特に、社会科教育・シテイズンシップ教育のフィールドで、学校現場と連携しながら個を活かすカリキュラムや授業プランの開発・実践・評価にも取り組んでいます。



●専門分野

特別支援教育

●主な担当授業

障害のある児童生徒の理解と合理的
配慮
障害の理論と実践

●研究分野の内容

知的障害や発達障害のある子どもが好きモノ・コトを活かした支援について研究・実践を行っています。具体的には、子どもの「好み」を活かすことで学びを促進する試みに取り組んでいます。また、特別支援教育に関わる教員・支援者が子どもの「好み」を見つけ、支援に活かす方法を学ぶ研修研究も行っています。



●専門分野

英語科教育

●主な担当授業

授業実践と評価の研究Ⅱ(英語科)
教科指導基礎実習

●研究分野の内容

高等学校では、4技能のバランスに配慮したわかる授業の実践に努めました。学校現場と教育行政の経験を活かし、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりやICTを活用した授業改善による教師の指導力向上とその推進のための校内体制づくりの研究に取り組んでいます。



●専門分野

教師教育
家庭科教育

●主な担当授業

教科教育実践と指導法の改善
教科指導向上学習Ⅰ

●研究分野の内容

教師の職能成長や教師間の人的ネットワークに関心を持っています。特に、教師の学校内外の人的資源、さらにそれらと教師が行う授業の関わりについて研究しています。一人一人の教師の職能成長は、児童生徒の学力向上など教育の質に結びつく重要なものであると考え、研究を進めています。



●専門分野

教育工学
情報教育(ICT活用)
理科・科学教育

●主な担当授業

教育の情報化における課題と実践
子どもの学びを促すディスカッ
ションのあり方

●研究分野の内容

学校現場における新しい学びの実現に向けたICT活用や教員のICT活用指導力の向上に関する実践的な研究を進めています。特に、中学校理科教員としての経験から、実践的な視点での教育・研究を心がけています。また、教員研修等を通じた教育情報化・ICT活用推進に向けた取り組みも進めています。
Apple Distinguished Educator
Apple Professional Learning Specialist



●専門分野

算数・数学科教育

●主な担当授業

教科教育実践と指導法の改善
授業実践と評価の研究Ⅰb(数学科)

●研究分野の内容

公立中学校や高等学校等に20年間勤務し、数学科についての実践研究を行ってきました。最近では、数学理論の成果を課題学習等の素材として再構成することにより、主体的学びを展開するための教材開発を行う研究に取り組んでいます。



●専門分野

教育学
国語科教育

●主な担当授業

教科教育実践と指導法の改善
教科等における授業実践と
評価の研究Ⅰ(国語)

●研究分野の内容

説明的文章の読解指導を中心に研究しています。学習者が日常の読みを通して、論理的に認識の限界を克服していけるような読解指導のあり方について研究しています。また、国語科教育全般について、楽しい授業づくりを実現するための研究にも取り組んでいます。



●専門分野

教育経営
学校経営
スクールリーダー教育

●主な担当授業

教職員の人材育成マネジメント
カリキュラム・マネジメントの理論と
実践

●研究分野の内容

学校におけるスクールリーダーとしての管理職層、ミドルリーダー等のマネジメント層の職能開発について、プログラム開発・指導法の開発等を通じて理論的・実証的研究を行っています。また、教育委員会の政策評価、教員研修プログラム開発、カリキュラムマネジメントの研修にも携わっています。



●専門分野

社会科教育
学校経営
人材育成

●主な担当授業

学級経営のPDCAと学習環境デザ
イン
教育連携フィールドワーク

●研究分野の内容

社会科や生活科、総合的な学習の時間で地域素材、地域人材を教材化し、主体的・対話的で深い学びの具現化の在り方について研究しています。また、学校における機能的な組織運営を通じた人材育成の在り方について実践的な研究を進めています。



●専門分野

数学科教育

●主な担当授業

カリキュラムマネジメントの理論と
実践
教育実践の理論と授業づくり(数学科)

●研究分野の内容

数学科および道徳科教育に関する授業や単元構成等についての実践的な研究に取り組んでいます。また、管理職としての実務経験を踏まえた、若年層教員の育成や各教科等におけるカリキュラムマネジメントのあり方等についても取り組んでいます。



●専門分野
学校教育学・教育相談

●主な担当授業
学校カウンセリングの方法
教育的ニーズの把握と評価

●研究分野の内容
人生を通じた成長に向けた、学齢期の学習面・心理情動面・キャリア面の発達を促進を、学級担任や担当者がガイダンスと個別指導でどう展開するか、管理職のリーダーシップや教育相談コーディネーター等による学校コンサルテーションの推進について、教育臨床的な研究をしています。国内外の包括的スクール・カウンセリングや、学びのユニバーサルデザインについても研究しています。

現



●専門分野
特別活動

●主な担当授業
子どものキャリア発達支援
特別活動・総合的な学習の時間の実践と課題

●研究分野の内容
協働的な学びや児童生徒の自己実現の育成には、特別活動の充実が効果的です。特別活動の実践を学校全体で組織的・継続的に展開することを通して、児童生徒の学級・学校生活が豊かになることを研究しています。

現



●専門分野
理科・総合的な学習の時間
学校経営
人材育成

●主な担当授業
スクールコンプライアンスと教職プロフェッションの開発
家庭・地域・学校の連携・協働の構築

●研究分野の内容
理科及び総合的な学習の時間に関する授業や単元構成についての実証的な研究に取り組んでいます。また、中学校 理科教員や教育行政、小学校と中学校における管理職経験を踏まえ、組織マネジメント若年層教員の人材育成についても研究しています。

新



●専門分野
社会科教育

●主な担当授業
教育実践の理論と授業づくり(社会科)
学級経営の実際と分析

●研究分野の内容
社会科の授業づくりの基礎・基本となる考え方や、1単位時間、並びに1単元におけるよりよい社会科の授業づくりについて研究しています。

新



●専門分野
体育科教育学
体育科教師教育

●主な担当授業
教育実践の理論と授業づくり(保健体育科)
教科教育の理論と実践I(保健体育科)

●研究分野の内容
学習者が教師の支援により、知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科教育の研究に取り組んでいます。体育授業における「試行」と「思考」の往還を大切に、3つの資質・能力をバランスよく育ていく授業研究にも取り組んでおり、小・中学校の先生方との協働による様々な領域での実践研究を行っています。

新



●専門分野
保健体育科教育

●主な担当授業
教育実践と評価の研究(保健体育科)
教科内容研究と教材開発(保健体育科)

●研究分野の内容
保健体育科教育における指導の工夫や指導と評価の一体化を実現するための授業実践に取り組んでいます。管理職や指導主事としての経験を活かし、教師の指導力向上や授業改善力向上に取り組んでいます。

新



●専門分野
教育課程
地域資源開発
生活科・総合的な学習の時間における理論・実践

●主な担当授業
地域教育資源の開発ワークショップ
カリキュラムマネジメントのPDCA

●研究分野の内容
これまで、地域の教育資源(人・もの・こと)を活用した生活科・総合的な学習の時間を軸に、地域と連携・協働する社会に開かれた教育課程の在り方について研究を進めてまいりました。また、その 編成・実施・点検・改善にあたって、学校・地域が一体となって取り組んでいく体制や仕組みについても実践的な研究を行っています。

現



●専門分野
英語科教育

●主な担当授業
教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ(英語)
教科教育の理論と実践I(英語科)

●研究分野の内容
主として初等・中等の英語教育におけるリーディング、ライティングおよび語彙習得の研究をしています。またコミュニケーションにつながる文法指導や4技能統合、さらにそれを実現に導くタスク活動についても研究を行っています。

新

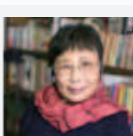


●専門分野
生徒指導
教育心理学

●主な担当授業
生徒指導の理論と実践
予防・開発的教育相談

●研究分野の内容
子どもの学校適応の促進を目的に「社会性と情動の学習」と呼ばれる社会的能力を育成するための教育プログラムを開発し、幼稚園や小学校などの学校現場で実践的な研究を行っています。特に、良好な人間関係を築くために重要となる他者の感情を理解する能力や自分の感情をコントロールする能力の育て方に関心を持っています。

現



●専門分野
教師教育
国語科教育

●主な担当授業
授業分析・リフレクションの理論と実践
授業実践と評価の研究Ⅱb(国語科)

●研究分野の内容
研究分野は、話し合いの指導、個別化・個性化の実現、教師教育の3つです。話し合いの指導は、話し合うときの思考過程を対象、個別化・個性化の実現は、大村はまの「学習の手びき」とイェナプラン教育を対象としています。そして教師教育は、リアリティックアプローチ、リフレクション、レジリエンスを探究しています。

新

新

：教育実践力開発コース

現

：スクールリーダーシップ開発コース

※令和6年度所属教員のうち、承諾を得た教員を掲載しております。

●過去の入学者の出身大学(50音順)

大分大学 大阪教育大学 大阪経済大学 大阪体育大学 岡山理科大学 沖縄大学 鹿児島大学 鹿屋体育大学 関西大学
環太平洋大学 北九州市立大学 九州共立大学 九州工業大学 九州産業大学 九州女子大学 九州大学 京都大学 京都女子大学
近畿大学 熊本大学 久留米大学 神戸親和女子大学 高知工科大学 公立鳥取環境大学 國學院大学 駒澤大学 佐賀大学
下関市立大学 島根大学 信州大学 西南学院大学 創価大学 筑紫女学園大学 中京大学 都留文科大学 東亜大学
東京農業大学 東京理科大学 同志社大学 東北文教大学 徳島文理大学 鳥取大学 長崎大学 鎮西学院大学 長崎県立大学
長崎国際大学 名古屋外国語大学 鳴門教育大学 新潟医療福祉大学 新見公立大学 西九州大学 西日本工業大学 梅光学院大学
広島大学 広島文化学園大学 広島文教女子大学 福岡教育大学 福岡工業大学 福岡女学院大学 福岡大学 北海道教育大学
宮崎公立大学 宮崎産業経営大学 宮崎大学 名城大学 明治大学 安田女子大学 山口大学 山口学芸大学 立正大学
立命館大学

入試概要 (詳細は、ホームページ及び募集要項をご確認ください。)

教育実践力開発コース

【修了年限】	2年	3年(初等教育高度実践力特別プログラム)
【修了要件】	46単位以上	46単位以上
【学 位】	教職修士(専門職)	
【取得免許】	教育職員専修免許状	
【入学定員】	33名程度*(初等教科教育高度実践力プログラム、初等教育高度実践力特別プログラム、中等教科教育高度実践力プログラム、教職教育高度実践力プログラム) ※福岡教育大学学内推薦選抜、協定校特別推薦選抜9名以内を含みます。	
【対象者】	大学卒(卒業見込みの者を含む)または社会人等で下記の免許を有する者及び令和7年3月までに取得見込みの者 初等教科教育高度実践力プログラム:小学校教諭一種免許状 中等教科教育高度実践力プログラム:中学校教諭一種免許状 (国語、社会、数学、理科、保健体育、外国語(英語))又は高等学校教諭一種免許状 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、外国語(英語)) 教職教育高度実践力プログラム:小学校・中学校・高等学校のいずれかの教諭一種免許状	大学卒(卒業見込みの者を含む)または社会人等で、小学校以外の校種の教諭一種免許状を有する者及び令和7年3月までに取得見込みの者で、小学校教諭一種免許状を取得しようとする者
【選抜方法】	一般選抜:論文(教科等もしくは教養に関する内容)・集団による課題解決・面接 福岡教育大学学内推薦選抜及び協定校特別推薦選抜:面接	

特別支援教育向上コース

【入学定員】	2年
【修了要件】	46単位以上
【学 位】	教職修士(専門職)
【取得免許】	教育職員専修免許状
【入学定員】	3名程度(特別支援教育高度実践力プログラム)
【対 象 者】	学部卒業生(卒業見込みの者を含む)および社会人等で、小・中・高等学校いずれかの教諭一種免許状および特別支援学校教諭一種免許状を有する者および令和7年3月までに取得見込みの者

※選抜方法については、ホームページ及び募集要項をご確認ください。

入試日程 (詳細は、ホームページ及び募集要項をご確認ください。)

	【前期募集】	【後期募集】	【第2次募集】
出願期間	令和6年9月2日(月)～9月6日(金) ※インターネット出願登録期間 令和6年8月26日(月)～9月6日(金)	令和6年11月1日(金)～11月8日(金) ※インターネット出願登録期間 令和6年10月25日(金)～11月8日(金)	令和7年2月7日(金)～2月13日(木) ※インターネット出願登録期間 令和7年1月31日(金)～2月13日(木)
試験日程	令和6年9月28日(土)、29日(日)	令和6年11月30日(土)、12月1日(日)	令和7年3月12日(火)
合格発表	令和6年10月8日(火) 10時	令和6年12月11日(水) 10時	令和7年3月21日(金) 10時

検定料、入学科、授業料(令和6年度実績) ●検定料…30,000円 ●入学科…282,000円 ●授業料…前期分 267,900円・後期分 267,900円(年額 535,800円)

※第2次募集は前期及び後期募集によって募集人員を満たしたコース・プログラムについては実施しません。第2次募集についての詳細は、12月下旬頃にホームページ等で実施について公表します。

推薦選抜

一般選抜の他、推薦選抜を行っています。

①福岡教育大学学内推薦選抜は、次の条件を全て満たす者

- ア 福岡教育大学を令和7年3月までに卒業見込みの者
- イ 学部での学修への取り組みが顕著で、教職大学院出願の学内選考基準を満たしている者(※)
- ウ 教職への熱意を持っており、教職大学院修了後、教職に就く者
- エ 合格した場合、教職大学院へ入学を確約できる者で、指導教員が推薦する者

(※次の①～③にいずれか1つに該当する者 ①累積GPAが基準以上の者 ②学部3年生で実施する本実習の成績が「秀」の者 ③教員採用試験に最終合格した者)

②協定校特別推薦選抜は、次の条件を全て満たす者(令和6年6月現在 福岡女学院大学、筑紫女学園大学、福岡工業大学)

- ア 学部での学修への取り組みが顕著と認められる者
- イ 教職への熱意を持っており、教職大学院終了後、教職に就く者
- ウ 合格した場合、教職大学院への入学を確約できる者で、学長(学部長)が責任をもって推薦できる者

※詳細は、ホームページ及び募集要項をご確認ください。

説明会 (本コースに関わるもののみ)

※第4回については、第2次募集を実施する場合に開催します。

第1回 令和6年
6月22日(土) 14:00～16:00
場所:教職大学院/オンライン

第2回 令和6年
8月17日(土) 14:00～16:00
場所:教職大学院/オンライン

第3回 令和6年
10月12日(土) 14:00～16:00
場所:教職大学院/オンライン

第4回 令和7年
1月25日(土) 14:00～16:00
場所:教職大学院/オンライン

個別相談

対面およびオンラインでの個別相談を積極的に受け付けております。
個別相談を希望される場合は、ホームページまたは、右記QRコードをご覧ください。



【教職大学院 説明会】



【教職大学院 個別相談】



【ホームページ】

詳細は、本学ホームページをご覧ください!

福岡教育大学教職大学院

検索



国立大学法人
福岡教育大学
University of Teacher Education Fukuoka

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1-1 福岡教育大学 教職大学院
TEL 0940-72-6012
[U R L]https://www.fukuoka-edu.ac.jp/
[E-mail]grdsptch@fukuoka-edu.ac.jp

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。